



胡先生と行く～三国志・赤壁の旅 感想文 井上 一(団長)



旅行前に痛ましく、また不穏なニュースが流れるなか、少なからず不安な気持ちをいだいての出発でしたが、2日目の夜4人の方が外出して道に迷ったところを、地元の方にとっても親切に対応していただいたことをお聞きし、国と国との壁を越え、普通に生活している方と知り合うことの大切さを痛感する旅行となりました。

2日目は道教の一派全真教の永興観と関羽ゆかりの荊州古城へ。仏教や儒教と違い、道教は日本には縁のないものと思っていましたが、永興観訪問で道教は老子の「無」を通して仏教の「空」につながっているのだと思いました。荊州古城はいたるところに関羽像があり、中国の方々の関羽崇拝の思いを感じました。

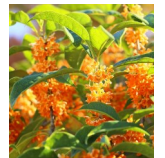
3日目は今回の旅行の主目的地である赤壁古戦場へ。咸寧市のご配慮で専属のガイドさんがつくなど、至れり尽くせりのおもてなしでした。有名な「赤壁」の赤字をバックに記念撮影をして、大満足の日でした。

4日目はあいにく雨が降ったりやんだりの天候でしたが、かえってそれが長江中流域のしっとりとした風情を感じさせ、特に咸寧市名物の林立する竹林やきんもくせいの雰囲気を実感させていました。午後の湖北科技学院との交流座談会では、鄂南文化センターの何岳球主任が、三国志の登場人物の中で魯肅を高く評価されていました。魯肅は三国鼎立のグランドデザインを描き、劉備に手を差し伸べてそれを実現させた立役者だったと。私も魯肅が好きなので、何主任のお話は聞くことができたことは今回の旅行の大きな収穫でした。後で向かいに座っていたMさんから、私がその時ニターッと笑っていたと言われたのですが、私はニターッとではなくニコッと笑ったつもりでしたが。夜は咸寧市主催の歓迎会をしていただき、参加者に心のこもったお土産をいただくなどお礼の言葉ありません。

5日目は武漢の黄鶴楼・湖北省博物館・長春観を訪問して全行程を無事終えました。

私事ですが、8月末から一か月間に2回も入院手術という事態に見舞われ、一時は旅行への参加もどうなるかと心配しましたが、経過良好で今回の旅行を無事終えることができました。至る所で丁寧な歓迎をしていただいた現地の皆様、また今回の旅行を主催していただいた胡先生、ご参加いただいた皆様との有意義な交流に、あらためて感謝の思いを強くしています。本当にありがとうございました。

赤壁ツアーに参加して 久野 正博



私の中国旅行は、これで通算7回目になりました。

30年前に、ツアーで西安、龍門石窟等を巡ったのを昨日のように覚えています。学生時代から中国古典文学に魅せられ、サラリーマン時代に念願の中国に旅行に行くことができました。秦の始皇帝の兵馬俑、龍門石窟の膨大な仏像遺跡等を見ることができ、そのスケールの大きさに感激したのを覚えています。そのころから中国の名所旧跡を巡りたいとの思いはずっとありました。

その後、かなりの間中国には行けなかったのですが、サラリーマンを辞め自営業になって時間が取れるようになってからは、ちょくちょく中国に行けるようになりました。北京に2回、上海、重慶、成都、長江の船による三峡ダム見学、赤壁巡り等々。又、旅行の形態も、中国人の知り合いにより北京市内を案内してもらったり、全くの一人旅、中国に興味のある人達とのツアー等、色々な形で旅行をしてきました。印象深かったのは、北京での故宮博物館、天壇、頤和園、万里の長城、明の十三陵、成都での三国志ゆかりの史跡、杜甫草堂、等々でしょうか。技術士仲間による中国訪中団としての旅行時には、上海大学、重慶大学との技術交流も行ってきました。

その中で、今回の赤壁ツアーは中国の人達との交流を行うことができ、新しい楽しみ方、新しい魅力を発見することができた旅行と思っています。胡金定先生の人脈の広さには、本当に感心し、感謝しています。お陰様で、咸寧市の竹子博覧館内の案内、武漢市長春観(道教寺院)内を直接道教の観長さんによる解説付きでの見学、赤壁古戦場での地方政府関係者じきじきの通訳付きの詳しい解説付きの案内、又、その人たちとの食事会を通じての交流等を楽しむことができ、本当に盛沢山のツアーでした。中国は日本と文化的な面に限らず、ありとあらゆる面で歴史的な繋がりを持った国です。これからも、こういう交流を通じて友好を深めていきたいと思っています。



## 胡先生と行く 三国志・赤壁の旅 感想文 小瀬 裕功

私は20年ほど前に西安、上海を旅したことがあり、今回2回目の中国でした。今回は一般的な旅行というより、三国志という予備知識を持った上で中国の歴史を感じ、加えて普通の旅行では行けない所まで胡先生の人脈を訪れることが出来る、一生の中でも滅多に経験できない貴重な旅行だったと感じています。

今回の中国は三国志の遺跡を訪ねることが第一ではありませんでしたが、私にとっては移動の途中でバスの車窓から街並みを見るのも楽しいものでした。都市部でも物売りなどの昔の様相を残しつつも、日本とは違ったやり方ですぐに進んでるなど感じることもありましたが。特に荊州や岳陽で多かったのですが、店舗の看板がほとんどLED化されていました。よく目立つ中国の人が好きな赤色が多く、不動産の所有が認められていない中国ではデータを変更するだけで店舗の業種や屋号が入れ替えられる？これは新技術を使った合理的なやり方だと感じました。LEDは訪問した道教のお寺の本堂でも利用されており、その新旧混然の様に感心し新しく便利なものは何でも取り入れるパワーを感じました。

もう一つ今回の訪問で感じたのは、中国の人(特にエリート層)はみんな偉くなりたいという考えが非常に強いと思うことです。訪問した黄鶴楼酒造会社でもありましたように、製品のボトルがタワーのように高くなっているものがあり、これは偉くなって登っていくという縁起を担いだ商品のお酒だということを知りました。

咸寧市では政府主催の交流晩餐を開いていただき、咸寧市政府秘書長の王氏が出席されました、その時同席された方々は皆王氏のことを第一に気を遣っているように見えました。中国の社会ではそうして上司を立てることを踏まえ出世することがとても重要なことなんだなというふうに感じました。湖北科技学院の会議室にも習主席の写真とスローガンが掲げてありました。日本では出世第一主義のように捉えられても、悪い意味ばかりではなく中央政府の方針を排してその体制の中で皆が同じベクトルを持って社会の発展に努める、それがこの国のやり方で急速な発展の鍵もここにあるのではないのでしょうか。ガイドの何さんの説明によると、武漢では無人の車が30000台も走っているということでしたが、これも国家の方針と何でも新しいことをやってみようという国民性が相まって進んでいるということの象徴だと思います

翻って日本を見て一例をあげると、現在マイナンバーカードの普及を目指していますが、遅々として進んでいません。これは元々のグランドデザインの弱さもあるのですが、日本人が総体的に新しいことに積極的でなく、政府のやることに懐疑的な面がある。こういう処も中国から学ぶことが多々あるような気がしました。



## 赤壁ツアーの感想 竹田 昇



皆さん、今回の赤壁ツアーお疲れさまでした。雨男の胡金定先生(周瑜)と晴れ男の私(曹操)の戦いは、幸い武漢では雨は降らず、曇り空から最後には晴れ間が広がり、史実とは逆になりましたが、皆様のご期待通り曹操の勝利となりました。ご褒美のミカンの味も格別でした。

曹操は三国志演義では悪役になっていますが、曹操は魏の国では北方の英雄で、豪放磊落な武将で個人的には大好きな武将です。映画「レッドクリフ」でも曹操役を演じた張豊毅(zhang feng yi)はとても格好良かったです。ちなみに諸葛亮は日本の俳優で金城武が演じていました。

日中文化振興事業団から赤壁ツアーの事をお聞きし、すぐに参加の意思を伝えました。日中文化振興事業団に入会したのは昨年度からで、井上団長の講義は一回も受講したことがなくて、映画「レッドクリフ」や、横山光輝の漫画映画をビデオで見たことがある程度でしたが、今回参加された皆様方は三国志に対する造詣が深く、もっと事前に勉強してから行けば良かったと反省しております。しかし一番のハイライトであった赤壁の前に立った時は大感動でした。映画やビデオで見たそのままに、長江を挟んで魏の曹操軍と蜀の劉備・呉の孫権連合軍の戦いは壮絶な戦いとなり、軍師であった諸葛亮の作戦がことごとく功を奏して、連合軍が大勝利した光景が1800年以上の時を経て私の脳裏を駆け巡りました。

私は青島に駐在していた時の会社の人たちや、サッカー部の人たちやその他の多くの友人に会うために、2019年11月に青島を訪問して以来5年ぶりの中国となりました。今回訪問した武漢やその他の地方都市を見学しましたが、あまりにも急速な発展を目の当たりにして驚きの連続でした。例えばバスや乗用車のEV化が進んだせいか空気も澄んでいてPM2.5はどこに行ったのかと思いました。道路も夜中に散水車が清掃していて綺麗になり、町中にレンタル自転車が各所に配置されていて、日本よりずっと進歩しているなと思いました。毎月胡金定先生の講義「今の中国を知る」でお聞きしていた通りの発展を実感することが出来ました。

今回咸寧市政府から受けました手厚いおもてなしは、胡金定先生をはじめ多くの諸先輩方が、普段から民間レベルの日中友好活動に貢献していただいたことで、多くの便宜を賜わることが出来たと大変感謝しております。

これからは日中文化振興事業団の一員として友好活動に貢献できるように頑張りたいと思っています。

## 胡先生と行く三国志・赤壁の旅に参加して

若月 章



五年前の2019年11月、毎日文化センターで胡金定先生の「中国世界遺産講座」を受講していた時、私は先生に「教室だけにとどまらず実際に行きましょう！」と提案すると最初は大学の授業があると渋っていた先生が「じゃ行きましょう！」と決断してくれて実現したのが「曲阜・泰山・北京の旅」でした。その旅が本当に楽しく胡先生は何と4か月後の翌年3月に第二弾「黄山・杭州の旅」を企画してくれました。しかし、新型コロナパンデミックが深刻になりやむなく断念することになりました。今回はそのリベンジの意味もありました。今回は、世界遺産を巡り大発展を遂げる今の中国をありのまま見るという目的で、今回は定期講座で学習してきた延長で三国志の舞台を巡り中国の悠久の歴史に触れ、民間人としての人的交流を進めるという目的がありました。井上団長、余保副団長には大変な苦勞をしていただきました。企画段階から咸寧市との連絡そして参加者全員のビザ取得等様々なトラブルがあったなかようやく出発することができました。

今回の旅の縁となったのは、昨年9月に来阪された湖北省咸寧市副市長一行との短時間の交流懇談会でした。しかし咸寧市赤壁市の破格の対応が本当に驚くばかりでした。何でもここまでおもてなししていただけるのか？私には理解できませんでした。それは胡先生の交友関係の深さや執筆・講演・研究活動実績の積み重ねがあつての対応だったと分かりました。中国道教協会副会長呉誠真方丈が10月5日日中友好コンサートに来阪されたこと、道教寺院を訪ねた時湖北省の宗教担当幹部が会いに来られたこと、湖北科技学院との交流、咸寧市の秘書長、外事部弁公室主任等との交流、同じテーブルを囲み本当に楽しいひと時を過ごすことができました。特に昨年出会った方との再会うれしいことはありません。お互い覚えていて写真を見せ合い、家族のことを語り合う人間交流ができました。

私の尊敬する師匠池田大作先生がかつて何度も訪中され日中友好の「金の橋」を架けられた中で武漢大学との縁を結んだ一人の留学生に「友友好と言っても呉先生は今頃家族団らんでご飯を食べているかな？とか中国にいる相手の日常生活を思ったりする中に本当の友好があるよ」と語られたことを胡先生から聞きました。私もこの精神で胡金定先生と共に日中友好の一助になろうと思う次第です。

## 「胡金定先生と行く三国志・武漢の旅」感動編 竹田 清美

今回、一般社団法人日中文化振興事業団の「胡先生と行く三国志・武漢の旅」にご一緒させていただき、生涯忘れえぬ大きな交流の旅となり感謝に堪えません。

旅行を楽しみに参加を即決し、三国志を出発前に読み切つて行こうと思いつつ当日を迎えてしまった私は、三国志に詳しい井上団長のお話しが頼りでした。また、旅程において両国連携の準備に大変なご尽力をいただきました。日本人学校の事件などの報道や、噂で不安な注意を促す周りの方々に動揺もしましたが、そんな気持ちをさっと払拭してくださったのは、胡金定先生の一言でした。『何も起こらない！親友がいっぱいいるから助けてくれます！』と言明される人は立派な方々ばかりです。安心して明るい交流にしましょう！緊張はすっかり解けました。そうです勇気です！

入国の際に、指紋が採取不能の私？公安の人が傍に来て再採取でやっとなりOKになり、緊張的一幕でした。

武漢空港では、葉信園観長の熱烈歓迎で、お土産にたくさんの果物や布袋を配られ驚きました。

私が、前回中国に訪れたのは2019年の11月、青島サッカー部の人達や、その他多くの友人たちとの再会を喜び、青島平度第二実験小学校訪問交流を実現しました。その一月後コロナ禍にマスク不足が深刻だと知り、同小学校にマスク3千枚ほど送った後、世界中がパンデミックになりました。あれから5年が経ち訪中交流に参加でき、猶更に深い喜びがありました。

地球に住む人間の試練を前向きに生きるために道標になることを記した、道德経の著者長春観呉誠真観長と永興観では葉信園観長による歓迎会並びに宗教行政局長と交流に哲学思想を知ることがあり、仏教の教えに重ねて再考しました。道教については、仏教哲学大辞典P1258聖教新聞社版に老子の思想として教えの紹介があります。そして何より、中国に平安安寧を願う信仰思想を崇拝することに感銘致しました。

正式な訪中団体として、特別に観光地の観覧や湖北科技学院で古美術や技術研究の作品を拝見することが出来、その図書館に絵本を寄贈することができました。

三国志の大舞台の赤壁を眼前にして、井上先生の滑舌のよい語りに情景を浮かべ、少数の兵が多数の兵に立ち向かい勝利に導く鋭い知見を学びました。今を生きる人に影響を与え続け、多方面に学ばせるパワーこそ文化の極みかと感じます。

古戦場と今の武漢の街を見て知ることができました。現在は見事に進化していて無人運転タクシーが走り、EV車ばかりの走る高速道路で立ち寄った休憩所では胡金定先生の支援金で出来た胡金定道路の名前が記された高速道路のある場所(华容)に遭遇しました。良いことを重ねてこられ敬服いたします。

咸寧市竹子博覧館の古美術品観覧、金木犀の博物館には気品高い香りと、多くの種類の木や樹齢1800年の木もあり、日本に多くの文化を与えてきた中国との友好交流は今後も大切にしていきたいと思いました。

ご縁があつてこの旅にご一緒できた皆様お一人ずつに感謝申し上げます。

胡金定先生が長年積み重ねてこられた日中の友好活動の礎があればこそと、仲間に入れていただき歓喜と感謝の旅となりました。



## 胡先生と行く三国志・赤壁の旅

鴻原森蔵・明子

今回の赤壁ツアーは、私にとって大変貴重で感動的なものでした。

2018年に岳陽楼に行ったことがあったのですが、その時の記憶はすっかり忘れてしまっていました。今回は井上団長の詳しい解説をお聞きしながらの見学だったので、歴史の背景や意味を理解しながら巡ることができ、深く印象に残りました。

赤壁の戦いは、中国の歴史においても重要な出来事であり、私が中学生のころにNHKの人形劇で初めて知った「三国志」の物語としても記憶に残っています。

今回、同行した皆様は三国志について熱心に勉強されており、私ももっと事前に知識を深めておけばよかったと反省しております。その中で「忠義千秋」という言葉が印象に残っていて、人を裏切らない、時を超えて変わらない忠誠心や義理を表して、曹操、劉備、孫権といった英雄たちの間でみられる忠義の心はこの言葉によって協調されると思います。

この心は今の世の中にも必要ではないかと思えます。

赤壁の地で実際に戦いが繰り広げられた場所に立ち、その空気を肌で感じることができたのは、私にとって特別な体験でした。

今まで、仕事で何度も中国を訪れていますが、中国の文化や歴史をじっくり感じる機会はありませんでしたので、胡金定教授、井上団長をはじめとする皆様のお蔭で、歴史的な場所を訪れる意味がより深く理解できました。

また、ツアー中は参加者同士の交流もあり、同じ興味をもつ方たちと楽しい会話や、歴史についての見解を共有することで、より一層三国志の歴史が身近に感じられました。このような貴重な体験ができたことに感謝いたします。次回もこのような機会があれば、是非参加したいと思います。このツアーでの体験は私の心に深く刻まれ、これからの人生の中で大切な思い出となります。また、このような素晴らしいツアーに参加できる日を心待ちにしております。



## 三国志ツアーの感想 厚澤雅記



私にとって、中国への関心をもったきっかけの一つは三国志でした。この物語は古代中国の壮大な歴史を描いており、その登場人物たちの生き様や戦略に心を奪われてきました。今回のツアーに参加する機会をいただいたことで、夢に描いていた三国志の舞台を実際に訪れることができるという期待感で胸が膨らんでいました。しかし、初めての中国での一人行動には不安もありました。しかし、胡金定先生をはじめ、ツアーの皆様が温かく迎え入れてくださり、すぐに安心感が生まれました。

ツアーの初日は武漢から荊州へ向かい、荊州に降り立った瞬間、私は感動に包まれました。荊州は三国志の中でも特に思い入れのある場所であり、ここで実際にその地を歩くことで、歴史が生き生きと蘇ってくるようでした。風景や人々の暮らしに触れ、物語の中で読んだ情景がリアルに感じられ、思わず涙がこみ上げてきました。

ツアーの3日目には岳陽や魯肅の墓を訪れ、赤壁古戦場へと向かいました。赤壁の戦いは三国志の中でも特に有名な戦いであり、その場所に立つことで、当時の壮絶な戦闘を思い浮かべることができました。ガイドの丁寧な説明を受けながら、歴史を深く学ぶことができ、心が躍る瞬間が多々ありました。戦いの舞台が持つ重みや、そこに集まった人々の思いを感じ、ますます三国志の魅力に引き込まれました。

翌日は竹の博覧館や黄鶴楼、湖北省博物館を訪れました。特に印象に残ったのは黄鶴楼です。そこからの景色は美しく、李白の詩が脳裏に浮かびました。彼の詩に込められた感情や情景が、この場所で感じられることに感動し、文学と歴史の深い結びつきを実感しました。湖北省博物館では多くの貴重な遺物を見学し、歴史の重みを感じることができました。

このツアーを通じて、私は人々の温かさを強く感じました。歴史を学ぶことはもちろん大切ですが、それ以上に現地の方々とのふれあいが、私にとって非常に有意義な時間となりました。彼らの歓迎や笑顔に触れることで、旅行の目的が単なる観光以上のものになり、より深いものを感じることができました。

また、実際に現地に足を運ぶことで、自分の目で見ることの重要性を認識しました。書物や映像では得られない、五感を通じた体験が私の中に新たな視点をもたらしました。自分の視点を持って物事を把握する必要性を強く感じ、何も問題意識を持たなければ、時間や経験は簡単に過ぎてしまうということを痛感しました。

この貴重な体験を糧に、今後も精進してまいります。三国志を通じて得た知識や感情を大切に、自らの視野を広げていきたいと思えます。中国の文化や歴史をさらに深く学び、次回はどのような場所を訪れるか、今から楽しみにしています。この三国志ツアーは間違いなく特別な思い出として心に刻まれると思えます。